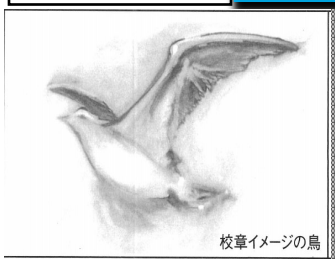
炬火を掲げていざ謳う　No.56

我らの泉鳥取

2023年9月19日（火）
編集　泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会
大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10
https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html


校章イメージの鳥

泉鳥取歴史散歩(3)

なぜ「鳥取」が阪南市に？

ー　地名の起源　ー

初めて泉鳥取高校に赴任した先生は「鳥取」の地名を見て驚いた人もいます。「なぜ大阪に鳥取？」この答えを阪南市HPと20周年記念誌から見てみましょう。

阪南市一帯は、古来より和泉国日根郡鳥取郷(いずみのくにひねぐんとっとりごう)と呼ばれてきました。この地名は930年代に編纂(へんさん)された『倭名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』に見られます。（阪南市HPより）

全国各地にある「鳥取」

現存の資料によると、近世までに鳥取の地名を確認できるのは、河内国大県郡（現在の柏原市）、和泉国日根郡（阪南市）、越中国新川郡（富山県の東半分）、丹後国竹野郡（現在の京丹後市の一部）、因幡国邑美郡（現在の鳥取市）、備前国赤坂郡（現在の岡山市北区と赤磐市）、肥後国合志郡（熊本市、合志市周辺）、下総国印旛郡（千葉市、因幡氏周辺の古代の駅として鳥取驛がある）、伊勢国員弁郡（いなべ市、桑名市）などに確認されています。（なお、北海道の釧路市にも確認できますが、これは明治以降の新地名なので除きます）この中で和泉国日根郡（いずみのくにひねのこおり）の「鳥取」が阪南市の鳥取になります。（20周年記念誌より改作）

「鳥取」の地名起源 『記紀』から探すと…

この鳥取の地名は、いずれも古代に「鳥取部」（ととりべ）と呼ばれる人人々が住んだところです。『日本書紀』や『古事記』では、誉津別命（ホムツワケノミコト）という人の名を残すために設置された「名代（なしろ）」とされています。

垂仁天皇の子で、全く言葉を発しなかった誉津別命（ホムツワケノミコト）が、白い鳥を見て「あの鳥は何？」と初めて言葉を発したのです。垂仁天皇は人を派遣して、白い鳥を探し求め、その鳥を天湯河板挙(アメノユカワタナ）という家来がとらえて献上すると、その鳥と遊ぶうちに誉津別命（ホムツワケノミコト）は言葉が話せるようになったと言います。誉津別命を記念して、全国に派遣した鳥を取る人々を「鳥取部」としたのが最初、とされています。実際には、元号を変えたりするとき、「瑞祥」として尊重され、献上された白い鳥を取る職人が住んだ地域を「鳥取」と呼ぶようになったのでしょう。

JR和泉鳥取駅